

弁

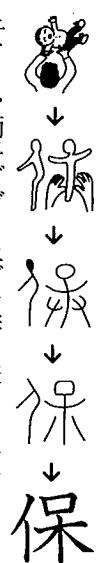
五年
函数
成り立ち
オフ
ベン



成り立ち

保

五年
筆順
回数
9
成り立ち
オン
ホ
タモリ



成り立ち

子どもを両手で引き上げた形を表した「呆」と「イ」

とを組み合わせて作った字です。

「人が子どもを、『まもり養う』」ことを表した字です。

単に、「まもる」意味にも使います。例保育。

「まもり続ける」ことを「たもつ」と言います。ある状態をそのまままでいせつに守り続けることです。例保存、保持、保守。

「まもる」意味にも使います。例保育。

「まもり続ける」ことを「たもつ」と言います。ある

状態をそのまままでいせつに守り続けることです。例保存、保持、保守。

「冠」の形を表した「ム」と、「両手」の形を表した「井」とを組み合わせて作った字です。「冠」を両手でもつた形」を表した字ですが、「冠」という意味に使われます。「武弁」とは、「武士の冠」のことですが、「武士」の意味に使われています。しかし、今では、同じ音の「辨」「辯」「瓣」の意味に使われます。

「辨」は、「二人の対決を、刀で切り分けるように見事に裁く」意味で、「わきまえる」ことです。例弁別。

「辯」は、「二人の対決を、巧みな言で解決する」意味で、「巧みなことば」のことです。例弁論、弁護、弁解。

「瓣」は、「瓜の中身」のことと、「果肉」の意味から「花びら」の意味に使われます。例花弁。また、花弁の形をしたもの意味に使います。例安全弁。

使い方

△中身がよく熟しているかどうかの弁別は、外から見ただけではなかなかむずかしいものです。

△まちがっていたと思ったたら、弁解しないで、あやまり、心から反省することがたいせつです。

△つばきの花の花弁をひろって、糸を通して、首かざりを作つて、妹の首にかけてやりました。

△武弁（武官が頭にのせる冠のことですが、「武士」の意味に使います。例私は一介の武弁にすぎないので、そのようなことはおことわりします。）

△弁別（よく辨えていて区別できること。判別や識別」と似た意味のことばです。）

△弁解（巧みなことばで、まちがいの言い訳をすることです。弁明とも同じ意味です。）

△弁護（他人のために言い訳をしてやり、その人を守つてやること。護は「ことばで守る」こと。）

△弁論（巧みて、すじ道の通つた話。論じ合いの意見を述べることに多く使われます。）

△花弁（花びら）